

平成 19 年 9 月 11 日

第 12 回 政策・広報委員会を開催

(社)日本物流団体連合会(物流連)は、平成 19 年 9 月 7 日(金)14:00 から東海大学校友会館(霞が関ビル 33 階)「霞の間」において第 12 回政策・広報委員会(委員長:栗林 貞一名誉顧問)を開催しました。委員会の内容は以下の通りです。

1. 大学寄附講座に望むもの

早稲田大学商学部の杉山雅洋教授より、早稲田大学で行われた 10 年間(平成 8 年～平成 17 年)の講座実績を踏まえて、「寄附講座の意義」について等の説明が行われた。

* 杉山教授による説明の内容は次のとおり。

(1) 寄附講座の意義

何故大学に寄附講座なのか

大学側として学問上対応できることとして理論体系化はできる。ところが実社会の動き、変化へのリアルタイムでの対応は出来難いという事情がある。

産業界の事情

事業活動として利潤最大化の追求の他に、広報活動として事業活動、事業環境、CSR への取り組み等に関する広報、所謂、自己のコーポレートアイデンティティを知っていただくということが必要になってきた。

寄附講座の意義

大学と産業界への意見交換による双方の補完ができる。学生へは企業活動への関心の充足、問題意識の喚起ができ、産業界は事業活動への理解と人材確保としてのメリットが発生する。

また、若者の活字離れ、読書から見聞を広げることができ、実務の最前線のトップマネジメントからの講義は魅力的である。

(2) 受講生の反応

物流業界と学生との情報ギャップ

学生は物流について学ぶ機会が少なく、知らない者さえ少なくないのが実情。

レポートにみる受講生の感想

「毎回異なった講師の講義は新鮮であった」、「今日の物流事業者の実態を初めて知る機会となった」、「物流業が 20 兆円産業であることは意外であった」等々。

(3) 講師について

受講生の感想

講師からの講義の熱意が学生にも伝播し、口コミで次年度の受講の推奨となった。また、ビジュアルでの講義方法は非常に分かりやすく評価は大であった。講師への個別の質問(レポート)による回答には大好評(但し、講師には多大な負担だったと思う)

講師の感想

自社に欲しい人材が少なからず確認できた。商学部での女子学生の多さに驚愕。

(4) 反省点、物流業界への要望

反省点

講義構成へのメリハリの工夫が必要。また、受講する学生への指導の見直し(受講態度、レポート提出、内容)、試験問題の評価の困難性。

物流業界への要望

物流業者と学生との間の情報ギャップ、認識ギャップの把握と対応。若者(学生)のニーズ、関心の把握。若者(学生)に魅力ある業界であることのアピール(その方法のあり方、将来像の展望も含めて)。女性の積極的活用(近年の女性は非常に積極的であり、非常に優秀である)

2. 小・中学校への物流連のアプローチについて

(1) 教科書への取り組みについて

昨年、文部科学省と国土交通省に「要望書」を提出したが、その後の進捗状況についてと、中教審、教科書執筆者への協力要請についての進捗状況を報告した。

(2) 「物流見学ネットワーク」、「物流ライブラリー」の進捗状況と今後の取り組み

小・中学校へのアピール

各小・中学校のホームページに記載されているメールアドレス960件に「案内」を一斉送信したが、アクセス状況から判断して別のアプローチ(教育委員会等)も必要と判断。

教育委員会へのアプローチ

東京都の4つの教育委員会(江東区、太田区、港区、品川区)へアプローチをした結果、物流連の取り組みが評価され、教育委員会より紙ベースで各小・中学校宛に送付していただけることとなり、今後は各地の教育委員会へも同様のアプローチを強化することとなった。

(2) 「中学生の職場体験」の取り組みについて

中学校では会社見学ではなく「中学生の職場体験」の取り組みを強化している。文部科学省、各教育委員会からの強力な後押しもあり、今後、「中学校の職場体験」を受け入れ、協力する方向で進めていくこととした。

以上

(連絡先) 担当 西城、新開
03-3593-0139